

オフィス分野のプリント枚数は頭打ちでも、 業務用デジタルプリントの枚数は順調に増加

インフォトレンズ社主催のサプライ（消耗品）市場コンファレンス2016に参加する機会をえて、コピー機、プリンター、デジタルプレスなどの消耗材の市場動向を入手できた。

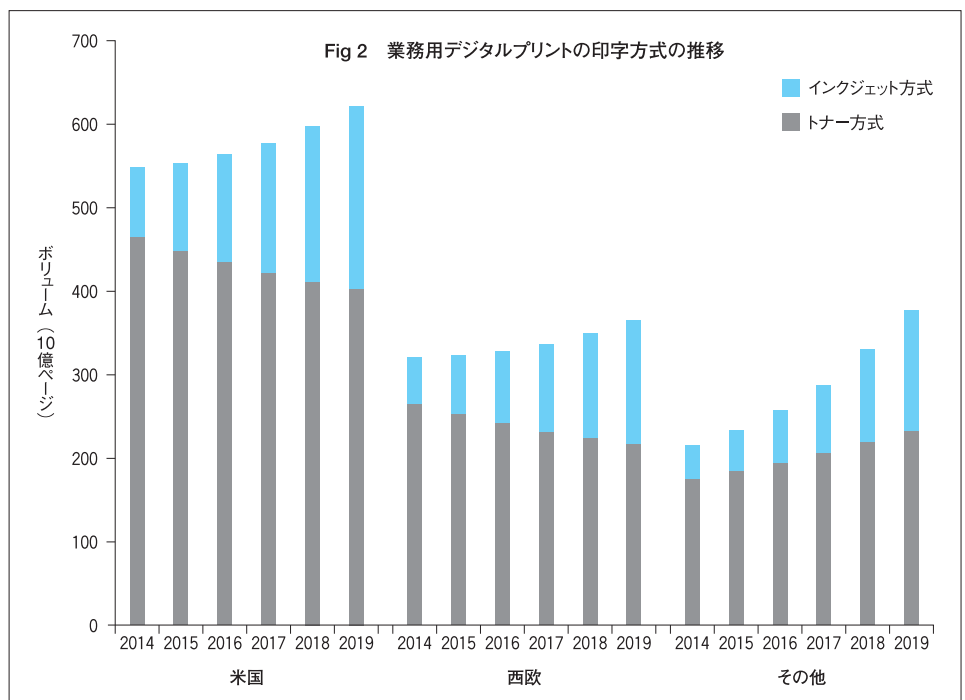
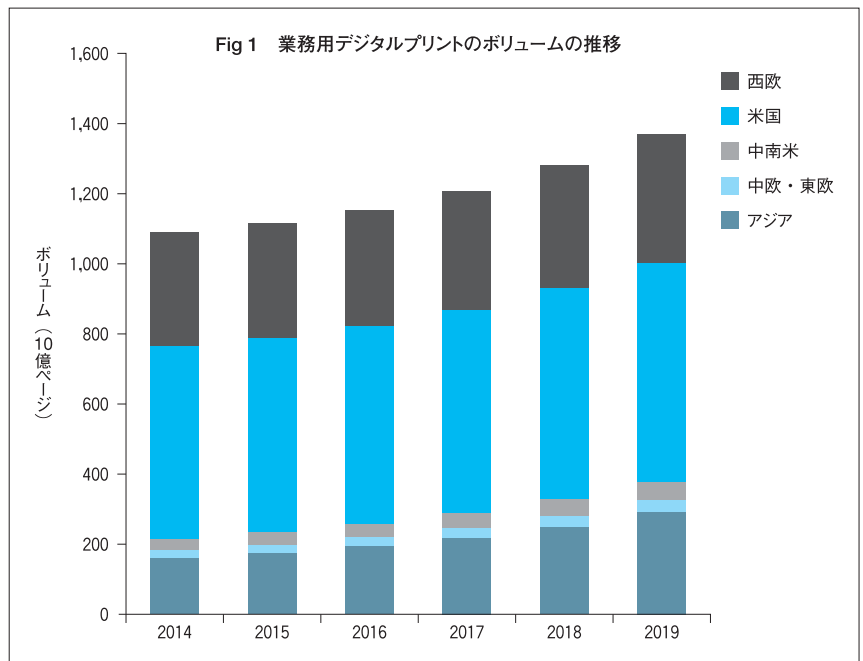
オフィス用コピー機・プリンター設置台数は2014年から2016年は約1.5億台で横ばいが続き、以後2019年の1.46億台へと微減の動向が予測されている（注：カナダ及び中東・アフリカの数字は含みず）。またプリント枚数は2014年の約2.66兆ページから2016、17年の2.73兆ページをピークに、その後は微減と、コピー機・プリンター設置台数同様にほぼ頭打ちの状態となっている。プリント枚数を地域別で見ると米国、西欧は減少傾向、中欧・東欧が横ばい、アジアと中南米が増加傾向となっている。

このように既にグローバルベースで見ても設置台数、プリント枚数ともに頭打ちのオフィス市場に比べ、プロダクションプリンターやデジタルプレスによる業務用デジタルプリントの分野では、設置台数は2014年の約79万台から2019年の82.5万台への微増であるものの、プリント枚数は2014年の1.09兆ページから2019年の1.36兆ページ（A4換算）へと順調に伸びることが見込まれている（Fig 1）。また地域別で見ても、全ての地域での増加が見込まれるなど、この分野がまだまだ成長分野であることを示している。

全ての地域で業務用デジタルプリントのボリュームは伸びているが、さらに詳細を見てみると、米国・西欧では全体ボリュームは増えているものの、トナー方式は減少しておりインクジェット方式が急激に伸びている。それ以外の地域ではトナー方式もインクジェット方式もどちらも成長しており市場の成熟度の違いが表れている。ただし成長性の点では、これらの地域

でもインクジェット方式がトナー方式を上回っている（Fig 2）。

この調査から事務機器市場の頭打ちと、業務用デジタルプリント分野でのプリントボリュームの順調な伸びが明確になり、大手事務機器ベンダーが積極的にデジタルプレスの市場に参入してきている背景が良く理解できる。またプリントボリュームにおけるインクジェット方式の増加が、予想以上に早いことも見て取れる。



出典：InfoTrends 注：カナダ及び中東・アフリカの数字は含まず